

印象派が始まる前の作品

MONET

印象派が始まって数年後の作品



クロード・モネ〈サン＝シメオン農場の道〉1864年



クロード・モネ〈モンソー公園〉1876年



オーギュスト・ルノワール〈静物(ブラム)〉1905年ごろ



斎藤豊作〈秋の色〉1912年

住友コレクション名品選 フランスと日本近代洋画

開催時間：10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで) 観覧料：一般1200(1000)円、大学・高校生1000(800)円※()内は有料入場20名以上の団体料金※中学生以下は無料
お問合せ：大分県立美術館 Tel.097-533-4500

く、鑑賞を望む人や若い絵描きたちにも公開しました。須磨別邸は絵画の啓蒙の場でもあり、伝承の場だったのでね。——洋画コレクションの見どころを教えてください。印象派と古典派という19世紀のフランスの2つの系統の絵画を一緒に見ることができるところです。19世紀半ばは、今のようなチューブ入りの絵具が開発され、絵の描き方が変化した時代でした。チューブがなかった時代は、絵具の持ち運びが難しいので終始アトリエで制作されました。同じ色の箇所から塗っていく、部分的に完成させていくので、色数が少ないのが特徴です。古典派の絵画の多くは、この技法で描かれました。一方、チューブの油絵具が誕生すると、手軽に持ち運びが

できるようになり、屋外で光を多く取り入れて描く印象派が登場したんです。19世紀はこのような過渡期にあつたため、古典派と印象派という全くちがう性格の名画が、同時期に生まれたわけです。古典派の作品では、ジャン＝ポール・ローランズやその弟子の鹿子木孟郎、印象派ではモネやルノワール、その影響を受けた浅井忠や藤島武二などが今回出展されています。2つのスタイルを一度に見ることができると、貴重な機会になるでしょう。——今回の展示の見どころの1つでもあるモネの作品について詳しく教えてください。春翠はモネの作品をとっても早い時期に日本にもたらしています。パリに行った際、モネと親しかった林忠正という美

術商の紹介で、十数点の中から『サン＝シメオン農場の道』(1864)と『モンソー公園』(1876)を選びました。春翠が選んだ2点は、モネの作品のなかではやや地味な印象がありますが、よく見ると構図が似ているでしょう。実は2点の制作時期は10年ほど差があり、印象派が始まる前に、印象派が始まって数年後に描かれたものなのです。比較のために似た構図のものが選ばれたと考えると、興味深いです。——今回展示されるなかで、特に館長の好きな画家を教えてください。黒田清輝の弟子である斎藤豊作という画家です。彼はパリで絵を学び、『秋の色』(1912)のような色彩豊かな点描の絵を描きました。一度は

洋の古美術品は京都に、モネや浅井忠などの近代の絵画は東京に所蔵されました。分館が20周年となった2022年3月には「泉屋博古館東京」としてリニューアルオープン。ギャラリーを増設し、講堂やミーティングルーム、カフェも新しく設置したのです。東京にお越しの際は、お立ち寄りいただけばうれしいですね。——今回、展示される洋画はどのような経緯で蒐集されたのでしょうか？春翠は、1897年に欧米の視察に行きました。そこで名だたる美術館や博物館を訪れ、だれでも美術品に触れられる環境に驚いたのです。帰国後、兵庫県神戸市の海辺に須磨別邸という洋館を作り、各部屋を飾るための絵画を集め始めました。例えば、海が見える部屋には海の絵、山側の部屋には緑の多い絵、それから浴室にはヌードという具合で、部屋の用途に合わせて絵が選ばれたわけです。個人的に楽しむだけでなく

住友コレクション名品選

フランスと日本近代洋画 会期 7/1(土)~8/31(木) 会場 大分県立美術館 3階 展示室B



泉屋博古館東京 館長 野地耕一郎

クロード・モネ、オーギュスト・ルノワール、鹿子木孟郎、藤島武二、岸田劉生など、フランスの印象派や古典派の作品と、その影響を強く受けた日本の洋画家たちの作品を有する住友コレクション。住友企業の近代化を進めた実業家・住友春翠と、その子息たちによって蒐集された名品が大分にやってきました。コレクションを所蔵する泉屋博古館東京の野地耕一郎館長に、展示作品の特徴や歴史、見どころをお伺いしました。

——まず、住友コレクションの特徴を教えてください。住友コレクションは、住友家第15代当主・住友吉左衛門友純(号春翠)とその子息である寛一と友成が蒐集した品々を中心としています。特徴の1つは近代日本において最初の本格的な洋画コレクションだということです。モネやルノワールをはじめとした19世紀のフランスで活躍した印象派の巨匠たちや、

浅井忠、藤島武二などの日本人近代洋画家の名品を多数所有しています。また、今回は大分では展示されませんが、500点あまりの古代中国の青銅器コレクションも特徴の1つです。古代の青銅器の歴史をたどることができる世界随一の蒐集といえるでしょう。——それらの貴重な住友コレクションを所蔵・公開する泉屋博古館とはどのような美術館なのでしょうか？「泉屋博古館」って、読み方が少し難しいでしょうか？泉屋とは江戸時代から続く住友の屋号からきていて、「博古」は、北宋時代にまとめられた青銅器の図録『博古図録』から取ったものなのです。泉屋博古館は春翠らが蒐集した優れたコレクションを公開するために、1960年に京都に財団が設立されました。その後、東京にも分館をつくることになり、2002年に泉屋博古館分館がオープン。青銅器と中国・日本・東

——展示を楽しむにしている大分の方々へメッセージをお願いします。住友コレクションの洋画は、先ほど触れたとおり、邸宅に飾るために集められたので、小ぶりで格調高いものが多いです。生活の中で楽しんでいただくため、素朴でありながら何度見ても飽きない作品ばかりです。ぜひ会場にも何度も足を運んでいただければと思います。

近代洋画を代表する巨匠たちの名品85点が大分へ！

モネ ジュエリー

II 2023 コレクション展 II My Favorite Things 美術家たちのお気に入り

会期 6/29(木)～9/3(日)
前期…6/29(木)～7/25(火)・後期…7/27(木)～9/3(日)
休展日 7/26(水)は展示替えのため休展

会場 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

福田平八郎《遊鯉》1921年 寄託品



愛猫家として知られる彫刻家・朝倉文夫が猫をモチーフとした作品を数多く制作したように、身近な生き物や草花、風景などお気に入りのものを繰り返し作品のモチーフにした美術家たちは少なくありません。日本画家・福田平八郎にとっての魚、彫刻家・山本常一にとっての鳥、洋画家・中山忠彦にとっての西洋アンティーク衣装。いずれも彼らが繰り返

し作品のモチーフとしたお気に入りですが、これらのモチーフとの出会いは、彼らにとってかけがえのないものとなり、その芸術を大きく飛躍させました。本展は、それぞれの美術家たちの創作の原点となったお気に入りのモチーフを紹介します。

また、「朝倉文夫生誕140周年記念 猫と巡る140年、そして現在」に関連した特集展示として朝倉文夫の二人の娘、摂と響子をはじめ、兄の渡辺長男や弟子の日名子実三など、朝倉文夫を取り巻く美術家たちの作品を紹介します。

開催時間：10:00～19:00、金・土曜～20:00（入場は閉館の30分前まで）

観覧料：一般300(250)円、大学・高校生200(150)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

お問合せ：大分県立美術館 Tel.097-533-4500

関連イベント

ギャラリートーク 開催日：7/9(日)、7/23(日)、8/6(日)、8/20(日) 各日14:00～15:00
※予約不要・要展覧会観覧券

My Favorite Things - Artists' Favorites

見どころ1

九州初！ 日本で最初期の 洋画コレクション

住友グループの礎を築いた住友春翠は、実業の傍ら芸術文化にも力を注ぎ、西洋絵画を積極的に蒐集しました。有名な松方コレクションや大原コレクションに先駆けた、わが国で最も早い時期の洋画コレクションです。本展は今年、当館と島根県立美術館に巡回します。九州では初公開です。

本展最大サイズ！



ジャン＝ポール・ローランス《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》1877年

「グレー」は村の名前です



浅井忠《グレーの森》1901年 ※半期展示

厚く塗られた絵肌に注目！



藤島武二《幸ある朝》1908年

見どころ2

モネからはじまるコレクション

住友コレクションの2点のモネは、「印象派」前後の作風の変化を示す貴重な作品です。今回大分会場に掲げる「モネ、ジュテーム」というキャッチコピーは、作品を分析しようとする者に対して「私の作品はただ愛すればよい」と言ったモネの言葉から連想したものです。いつの時代も無条件に観る者を引きつけるモネの魅力、そしてモネからはじまった住友洋画コレクションの豊かな広がりをお楽しみください。

「ネル」のようにソフトな質感



渡辺與平《ネルのきもの》1910年

見どころ3

時代とともに 移り変わるコレクション

1903年に神戸・須磨に構えた洋館はモネをはじめ数々の絵画が飾られ、訪れる日本人画家たちに鑑賞の機会を与えるとともに、その創作に影響を与えました。ここでは、様々な傾向の絵画がバランスよく飾られ、変化に富む近代絵画を知ることができました。

フランス古典派のジャン＝ポール・ローランスの大作は、二度の渡仏でローランスに師事した鹿子木孟郎が、春翠の依頼により入手した作品です。浅井忠の水彩画は関西美術院建設費を春翠が拠出した縁によるもの。さらには藤島武二、渡辺與平ら、独自の画風を模索し文展等で好評を博した画家の作品も集められます。

住友春翠の慧眼は二人の子息、寛一と友成に引き継がれます。寛一は岸田劉生と親交を結び、「麗子図」をはじめ複数の作品がコレクションに加わります。友成はピカソ、シャガール、ルオーらの作品を集めるとともに、中川紀元、前田寛治、児島善三郎といった日本のフォーヴィスムにも注目します。

この他、梅原龍三郎、岡鹿之助、小磯良平、坂本繁二郎、熊谷守一など、幅広い作風の作品が一堂に会します。ぜひ会場で珠玉のコレクションをご堪能ください。

「デロリ」の美！
必見！



岸田劉生《二人麗子図(童女飾髪図)》1922年